

死は鴻毛^{こうもう}よりも軽し

作詞 J'Soul (浅羽一)

…死は鴻毛よりも軽し…

生きる時代と国が違えば 僕らはきっと
笑顔で肩を組めたのに
たった一秒生まれた時間に差があっただけで
命は悲しみを胸に刻み合う
一時^{いっとき}のパン代に左目を売り 一杯の水の為半分の血を流す
慟哭は小銃の悲鳴にかき消え
約束は爆弾の衝撃に破れる
硫酸の雨に鉄の傘を差し
青酸の風が森を呑み込む
為す術もないほど壊れた世界を 満たす腐臭に蠅がたかる
弱者が強者に 強者は弱者に
やがて弱者は加害者になる
被害者が復讐者を 復讐者は加害者を
そして加害者はまた被害者を…

求めるモノの意味を語れば 僕らもきっと
乾杯と言えたはずなのに
たった一粒手の中の種が枯れていただけで
誰もが誰かと花を奪い合う
身勝手な大義で雨に毒を盛り 真実を誤魔化して傷口に泥を塗る
逡巡の代償は永遠の虚無で
絶望の衝動が希望を鎌で刈る
胸をさらけ出し転がる死体に
餓えた地上の獣が群がる
無理矢理回した歯車の欠片は 崩れた街の中に落ちて
■繰り返し

傷つける快楽は悲しみに斬りつけ 傲慢な暴力が震える子供に銃口を向ける
踏みにじる欲望は安らぎの首を絞め 臆病な独善が涙をカクテルの香りに使う

■繰り返し